



# 土木紀行

## 大正の技術モニュメント

### 京橋

#### 岡山県岡山市

### 政令指定都市・岡山

岡山市は、旭川、吉井川の2大河川を有しており、市西部においては隣接する倉敷市を流れる高梁川の恩恵も受け、水資源に恵まれた岡山平野に発達してきました。

古代より吉備文化の発祥地として栄え、市西部には造山古墳をはじめ、今も多くの史跡が残っています。

天正元（1573）年、戦国武将宇喜多直家は沼城（現・上道地区）から石山城に居城を移すと、城を大改修し、同時に城下町の建設に着手しました。直家の子の秀家もこの事業を引き継いで、岡山城を完成させるとともに城下町の拡張整備に努め、岡山発展の礎を築きました。

宇喜多秀家は関ヶ原の合戦で敗れ、替わって小早川秀秋が次いで池田家が藩主となりました。寛永9（1632）年には池田家同士の国替えで、名君の誉れ高い池田光政が31万5千石で藩主となり、学問の奨励や藩政の改革などに功績を残しました。その子の綱政は、元禄13（1700）年に日本三名園の一つ後楽園を築いています。その後は代々池田家が藩主となり明治維新を迎えました。

明治4年に廃藩置県の令が發布されると岡山に県庁が設置され、明治22年6月1日、面積5.77 km<sup>2</sup>、人口47,564人で市制を施行、「岡山市」が誕生しました。

そして今、瀬戸大橋、岡山空港、山陽自動車



後楽園と岡山城

道、岡山自動車道など広域高速交通網の整備が進み、中四国地方の中核拠点都市として発展を続け、平成の大合併を経て人口約70万人、面積789.91 km<sup>2</sup>を擁する新「岡山市」が誕生。平成21年4月1日、全国で18番目の政令指定都市に移行し、新たなステージへと進んでいます。

### 大正の技術モニュメント・京橋

- ・所在地 岡山市北区京橋町 / 旭川
  - ・規模・構造
    - 橋長131.20m・幅員14.20m（路面電車複線併用）
    - 単純鉸桁・支間割5.5+9.0×13+5.5m
    - 鉄筋コンクリート床版・鋼管ラーメン式橋脚
  - ・建設年 大正6（1917）年開通  
大正11（1922）年拡幅
- 岡山城を築いた宇喜多秀家が、岡山城直下の旭



現在の京橋



川に当時木製の京橋を架け、山陽道もこの橋を通ることにしたのは文禄2（1593）年です。

中世の山陽道は岡山の北を抜ける行程でしたが、架け替え以後、山陽道が通ることとなり京橋は岡山の賑わいの中心となりました。

近代になって、旭川西岸で運行を開始していた路面電車を通すことも前提にして、京橋はそれまでの木桁橋から、幅員10.9mの鉄桁、鉄柱の橋に架け替えられ、大正6（1917）年に開通しました。大正11（1922）年になって京橋は同じ構造で幅員を14.2mに拡幅し、路面電車はその京橋を渡って大正12（1923）年に旭川東岸まで延伸開通しました。

京橋の構造は、各径間ごとにI形鋼を90cm間隔に並べ、その上に平均厚23cmの鉄筋コンクリート床版を置いています。当初の舗装は切石と木塊舗装でした。下部工は内径1.8mの木製井筒を下げ、その下に松杭を、井筒内にはコンクリートを打ち、その上に内部に鉄筋コンクリートを充てんした鋼管柱（径60cm、長さ4.3m、鋼板厚さ5mm）を立て、鋼管柱間は斜材で結ばれました。

鉄筋コンクリート床版の設計としては日本でも早い時期のもの、また現存している鉄管柱の橋脚を持つ道路橋としては、全国でも珍しい貴重な橋です。

また、当時はボール状の照明を使

い、石製観覧に鑄鉄製の「京」字をモチーフにした格子がはめ込まれるという優雅なものでしたが、金属部分は太平洋戦争中の金属類回収令で撤去されました。石製の親柱は残っており、現在も見ることができます。

ゴトンゴトンと音を立てる路面電車を渡し、架橋から90年以上経った今でも京橋は現役で、2000年には土木学会選奨土木遺産に選ばれています。そして、かつて岡山の交通の要衝であったこの地は、今では朝市で賑わっています。

### 交通アクセス

路面電車 東山行き『おかやまえきまえ』電停から『こばし』電停まで  
距離 = 2.3km 時間 = 12分

